

発見！！

さがみはら

せんしゃとうそう まき
戦車闘争の巻



相模総合補給廠 航空写真

●はじめに

いま ねんまえ しょうわ
今から52年前の昭和47（1972）年、ベトナム戦争の終わりに
さがみはらし ざいにちべいりくぐん そうごうほきゅうしょう にしもんまえ よこはましどう むらさめ
相模原市にある在日米陸軍相模原総合補給廠の西門前と横浜市道の村雨
ばし かながわく ふきん しみん はんしゅつ そし こうぎかつどう
橋（横浜市神奈川区）付近で、市民による戦車搬出阻止の抗議活動があ
りました。この抗議活動は「戦車闘争」とよばれ、延べ13万4000名の
市民がさんか
参加しました。

こんかい やく にちかん りゅう お どうじ ひとびと
今回は約100日間の戦車闘争がどのような理由で起こり、当時の人々
がどのようにこうどう
行動したかをまとめました。

● どうして相模原市に基地があるの？

相模原市は養蚕を中心とした農村でしたが、都心に近く平らな土地であることから1930年後半に旧日本陸軍が軍都の建設を計画し、農村から軍事都市として発展していきました。

(軍都・相模原については、発見さがみはら62号・63号を見てください)

昭和13(1938)年に相模原陸軍造兵廠が日本政府により建設されましたが、終戦を迎えた昭和20(1945)年9月2日以降は米軍が進駐し接收*しました。その後、昭和24(1949)年には在日米軍陸軍相模総合補給廠となり、朝鮮戦争やベトナム戦争では米軍の主要な補給基地として物資の確保や兵器の修理をおこなっていました。

*進駐：他国の領土内に兵をすすめ、そこにとどまること。

接收：権力で強制的に取り上げること。(『常用国語辞典』 学研プラスより)

● 【戦車闘争のはじまり】

昭和47(1972)年、ベトナム戦争中に壊れたM48戦車やM113装甲車がベトナムから横浜港へ運ばれ、その後、補給廠で新品同様に整備されてベトナムへ送り出されていることが知られるようになると、ベトナムの人々を傷つける戦車を止めようと抗議する人々が補給廠のメインゲートの西門前に集まりました。



ベトナム戦争に反対する人々がたくさん集まったよ！



● 【交通違反を理由に市民運動が拡大】

5月25日に補給廠西門前で戦車を30分足止めした、5月闘争とよばれる抗議が occurred。戦車はとても大きく重いものなので、車両の重量オーバーという法律違反(車両制限令)を理由に通行を止める抗議でした。

8月5日には横浜市神奈川区の村雨橋付近で、抗議する人々が戦車の前にスクラムを組み5台の戦車を足止めにした村雨橋闘争がありました。この

約100日間、戦車の運び出しを止めたあいだにどんなことがあったのかな？



時、戦車はベトナムに送られることなく翌日の8月6日に補給廠に戻りました。「車両制限令」では20トン以上の車両は市長の許可がないと通行できません。戦車は46.7トンもありました。横浜市長は市民の財産である橋を守るために許可を出さないと決め、補給廠の中にはたくさんの戦車が閉じ込められました。これをきっかけに西門前に戦車の運び出しを止めようとたくさんの人が参加するようになります。マスコミの報道もあり、相模原市内だけでなく市外からも人が集まりました。そして、戦車が運び出されないように見張るためのテント村ができました。また、「ただの市民が戦車を止める」会が誕生し、どこの団体やグループにも入っていない一般の人を受け入れました。

その後、抗議活動が活発になると戦車を止めたい市民と戦車を運び出した米軍の求めにこたえる日本政府の間で負傷者や逮捕者がでるようになりました。

● 【法律が改正され、抗議活動が幕をおろす】

政府は閣議で「相模原補給廠の戦車修理の縮小とベトナムへの輸送をやめさせるよう努力する」と方針を打ち出したため、やむなく相模原市と横浜市の市長は市道の通行許可を出しました。その後も市民の反対運動は強く、これに対して政府は車両制限令の法律を変えて、市長の許可がなくても戦車が市道を利用できるようにしました。そして、9月19日にM113装甲車が機動隊に守られ運び出され、ついに11月8日にM48戦車が運び出されました。その時、政府は機動隊4000人で3000人の市民をおさえつけ、133人が逮捕されました。戦車の通行が法律で認められ、機動隊により強く守られるようになると抗議活動は終息におひかれ、デモや座り込みのような抗議活動はなくなりましたが、補給廠内で何が行なわれているかを監視する活動は続けられました。

●戦車闘争後の相模原

戦車闘争をきっかけに市民と市が一緒になり基地返還運動が続けられてきました。それが実をむすび、キャンプ淵野辺と呼ばれていた、現在の淵野辺公園や市立博物館、相模原野球場、弥栄中学校辺りの土地が返還されました。平成26（2014）年9月には補給廠でも土地の一部が返還され、令和2（2022）年11月に共同使用のスポーツ・レクリエーションパークとなりました。これらの活動の様子は、令和4（2022）年に、戦車闘争の記録映画となり公開されました。そして、土地の全面返還を目指し、現在も相模補給廠監視団が補給廠の監視を続け、基地の中で何が行われているのか見守っています。



スポーツ・レクリエーションパークは
JR相模原駅北口にあります。



〈参考にした本〉

- ・『西門であいましょう』阿部あけみ／作 相園菜月／絵
相模原地方自治研究センター 2023（KI-39）
- ・『戦車の前に座り込め』『ただの市民が戦車を止める』会／編
さがみ新聞労働組合 1980（KI-39）
- ・『戦車は止まった』西尾顕爾／著 山田広美／絵
アゴラさがみはら出版 2002（KI-39）
- ・『相模原における戦車闘争の意義と承継』
相模原地方自治研究センター／編
相模原地方自治研究センター 2022（KI-39）
- ・『季刊アゴラ』第2号 第3号 第21号 第23号 第62号 第92号 第101号 アゴラさがみはら編集委員会／編 アゴラ（KI-30）

〈参考にしたホームページ〉

- ・相模原市公式ホームページ さがみはらキッズ
<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kosodate/1026602/saqamiharakids/question/index.html>

第82号 令和6年9月

発行：相模原市立橋本図書館

でんわ：042-770-6600 ファックス：042-770-6601

ホームページ

<https://www.lib.sagamihara.kanagawa.jp/>